

2019年
8/30(金)・31(土)・9/1(日)

京都造形芸術大学 京都藝術学舎
日本庭園・歴史遺産研究センター
2019年度 公開講座

庭園学講座 26

天皇と近現代の庭園

— 記念物保護制度 100年 —

開催地 京都造形芸術大学
京都市、宇治市

定員 80名(先着順で受け付けます)

受講料 32,000円

※別途費用として当日会場でテキスト代 3,000円
現地研修地への移動は各自負担

情報交換会(自由参加)

8/30(金) 18:00～(予定)

ウェスティン都ホテル京都 7,000円

※当日会場にてお支払いください

講師

尼崎博正

京都造形芸術大学教授 / 日本庭園・歴史遺産研究センター名誉所長

仲隆裕

京都造形芸術大学教授 / 日本庭園・歴史遺産研究センター所長

杉本宏

京都造形芸術大学教授 / 日本庭園・歴史遺産研究センター主任研究員

町田香

京都造形芸術大学非常勤講師 / 日本庭園・歴史遺産研究センター嘱託研究員

招聘講師

大野壽子

宇治市歴史まちづくり推進課主任

柴田昌三

京都大学大学院地球環境学学・能楽研究科 両教授

平岡己津夫

公益財団法人松殿山荘茶道会代表理事

丸山宏

名城大学農学部生物環境科学科教授

矢ヶ崎善太郎

大阪電気通信大学工学部建築学科教授 / 日本庭園・歴史遺産研究センター共同研究員

日本庭園は個人住宅の庭や寺院の庭などさまざまですが、基本的には生活文化の場であるといえます。

その生活の場としての庭園も、国家レベルの動向に影響を受けることが歴史的にありました。

本年は新たな天皇即位式という大きな国家儀礼が行われます。大正・昭和の即位式と大礼に際して、京都では新たな邸宅・庭園が多数造営されました。それは一体なぜだったのでしょうか。

また、制度という側面に焦点を当てると、今年は史跡名勝天然記念物保存法によって近代国家制度による庭園の保護が始まってから100年目に当たります。この間に日本庭園と国家制度はどのように変化して現在に至るのでしょうか。

今回は国家儀礼と国家制度に注目し、これらと日本庭園がどのように関わってきたのかを現地見学も行いつつ考えたいと思います。

